に käntč uri「童男」、käntč qïz「童女」の käntč で「若き」の義と解すべきである。

(8)、bars「虎」、čačäk「花」は稱號人名等に好んで用ゐられた名と見え、此の種の名稱中に頻出する語である。qïvïr はA18にも複數形を取つて qïvïrlar と記されて居る。「尊嚴なる」の義である。A、9の第四語もこの語の殘缺であらうと思ふ。

(4)、ykän, y(ä)kän, y(ä)gän はA4、9、12、13及びB10にも見え、又A14には ykänmiz として見えて居る。語義は「甥」[9]「姪」でこれもまたオルホン碑文を初め屢稱號中に現はれる。唐書回鶻傳上卷二一七上に移健頡利發といふ名稱が記され、その外にも「移健」といふ名は屢見する。この名については Hirth[9b] 氏の試みた解釋あるに拘はらず、多分この語に對應するものであらうと思ふ。

svik 卽ち s(ä)vik もまた既にオルホン碑文にも見え吐魯番出土の[10]トルコ文書にも出てゐる。sängün が漢語「將軍」に當ることは更めていふ迄もない。šada は人名としては Radloff の Uigurische Sprachdenkmäler 中の第十三文書に sada といふ名が見える。或は部族名として知られてゐる沙陀に關するものではあるまいか。

(9)、savčï といふ語が稱號中に用ゐられてあるのは甚だ珍らしい。語義は「話す人」「說話者」であつて、B5に見える tilmäči 卽ち「舌人」「通譯者」とは區別されねばならぬ。

trqan 卽ち tarqan はよく知られて居る語で、唐書突厥傳に記してあるその大臣二十八等中の「達干」に當るものであるが、然もトルコ語の tarqan は實は漢語の「達官」の輸入されたものに外ならぬと考へる。本來漢語であ